

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は昭和 51 年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にしている学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、次の三つに重点を置く。

【1】生徒の自己実現を最大限に支援する学校 【2】すべての生徒が安全・安心に生活できる学校 【3】地域としっかり連携して生徒を育てる学校  
人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒指導を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

## 2 中期的目標

## 1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり

## (1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する

ア 校内における教員相互の授業見学（オープンクラス）、公開授業・研究協議、ICT機器活用研修等の実施や、大阪府教育センターや大東市内中学校等で実施される研修・研究授業等に参加することで、教員の「授業力」を向上させる。

イ ICT機器の活用、授業形態や授業方法を工夫改善することを通して、本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」を行う。

ウ 本校生徒の様々な学習活動の場として、またメンタル面から支援する居場所カフェの場として、図書室の整備・充実を図る。

エ 新学習指導要領に対応した新たなカリキュラム編成の検討を行う。

2021年度までに、生徒授業アンケートの「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている（興味関心）」「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている（知識技能）」について、肯定的回答率を75%以上にする。（平成30年度は興味関心66.8%・知識技能67.5%）

2021年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「授業は分かりやすい」・「自分は授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を70%以上・80%以上にする。（平成30年度は58.0%・71.4%）

## (2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する

ア 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成できる、3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。

イ 地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップ、大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学、各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やすことで、生徒の進路意識の向上を図る。

2021年度までに、生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率を生徒75%以上・保護者85%以上にする。（平成30年度は生徒72.2%・保護者79.2%）

毎年度において、学校斡旋による就職内定率100%と、理由のない進路未決定者0名をめざす。

## 2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり

## (1) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶・マナー指導等を通して、生徒の規範意識や自律心を育成する。

## (2) きめこまやかな教育相談・支援教育の体制を構築することにより、さまざまな困り感を抱える生徒の早期発見と早期対応につなげることで、問題現象の発生や不登校、中途退学につながることを防ぐ。

## (3) 人権教育や総合的な探求の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。

## (4) HR活動、生徒会活動、部活動、学校行事等において生徒が主体的に参加・行動する取組みを進めることで、生徒の自尊感情や自立心を育成する。

## (5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取組みを進める。

2021年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「マナーや校訓を守っている」「頭髪・服装指導は適切である」「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」について、肯定的回答率を90%以上・70%以上・80%以上にする。（平成30年度は84.0%・66.4%・72.1%）

2021年度までに、年間の遅刻延べ回数を7000回未満にする。（平成30年度は8623回）

2021年度までに、生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を75%以上にする。（平成30年度は70.4%）

2021年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「学校はいじめ・差別に対して適切に指導している」「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」について、肯定的回答率を80%以上・90%以上にする。（平成30年度は76.4%・83.6%）

2021年度までに、生徒の部活動の加入率を40%以上にする。（平成30年度は32%）

2021年度までに、生徒向け学校教育自己診断「学校へ行くことが楽しい」の肯定的回答率を75%以上にする。（平成30年度は66.2%）

2021年度までに、1年生・2年生の進級率を現在よりそれぞれ5%向上させる。（平成30年度は1年生90.4%・2年生90.1%）

## 3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり

## (1) 従来から実施されている各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加できる校内体制を整備する。

## (2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施する。

ア 近隣小学校、中学校、高等学校の生徒と本校生徒が交流する機会（行事、部活動、授業等）を設定する

イ 地元の保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員が合同で参加する研修を実施する。

## (3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。

ア 本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を保護者や地域住民に伝える。

イ 中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。

## 4 教職員の働き方改革推進

## (1) 首席、分掌、各種委員会等の業務の見直しを行い、業務の効率化を推進する校内体制の構築を検討する。

2021年度までに、教員の時間外勤務時間を現在より30%減らす。（H30年度は2月末までで教員一人平均の時間外勤務は約30時間）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 11 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【全般的に】</b>                      生徒向け（24項目） 保護者向け（20項目）の診断結果を肯定的回答率で分類すると、80%台が 6項目・13項目、70%台が 13項目・3項目、60%台が 3項目・4項目、40%台が 2項目・1項目である。以上のことから、本校の教育活動が一定の支持を得ていると考える。                      また、肯定的回答率を前年度と比較すると、は21項目(全体の87.5%)は15項目(同71.4%)で上昇しているの、本校の教育活動に対する理解が進んでいると考える。                      以下では、肯定的回答率が40%台の項目と、前年より下がっている項目を中心に考察する。</p> <p><b>【生徒指導について】</b>                      生徒・保護者向け「服装・頭髪指導は適切である」の肯定的回答率が昨年より若干減少している(生徒-1.9%・保護者-3.5%)。今年度の1年生は課題を抱えた生徒が例年より多いことが一因と考えられるが、引き続き粘り強い指導が必要である。                      また、保護者向け「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」の肯定的回答率が昨年より若干減少しており(-1.8%)。特に2年生での値が低い。服装・頭髪指導も含めた生徒指導全般において、継続的に保護者との連携を一層深める必要がある。</p> <p><b>【コース・科目選択】</b>                      生徒向け「コース選択や科目選択はわかりやすい」と保護者向け「子どもは選択したコースに関心を持って(満足して)いる」について、肯定的回答率が昨年より若干減少している(生徒-1.1%・保護者-2.7%)。これは、今年度よりカリキュラムを一部変更したことの影響と思われる。次年度からは、より丁寧な説明や資料作成に取組む必要がある。</p> <p><b>【授業について】</b>                      生徒向け「先生は分かりやすい授業のために工夫している」の肯定的回答は昨年度より若干減少している(79.2%・-0.3%減)。一方、生徒授業アンケート(12月実施)における授業満足度と達成度の肯定的評価は、昨年度より大きく上昇している(4段階評価で3.00 3.10・3.02 3.12)。                      生徒・保護者向け「授業はわかりやすい(と話している)」の肯定的回答率は、生徒 62.2%・保護者 62.8%であり、決して高い値ではない。個々の生徒が授業のどの部分で「難しさ」を感じるのかをより細かく把握し、学ぶ意欲を育む授業改善への取り組みを継続することが必要と考える。</p> <p><b>【保健関係】</b>                      生徒向け「校舎内の清掃が行き届いている」の肯定的回答が、一昨年度から継続して上昇している(28.1% 38.3% 44.9%)。今年度は生徒会の呼びかけで実施した校内清掃活動の効果と考えられる。しかし、数値がまだ半数に満たないことから、次年度も引き続き清掃指導の充実を図る。</p> <p><b>【危機管理・情報発信】</b>                      生徒向け「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」の肯定的回答率は昨年度より微増したが(47.6% 48.7%)、数値が半数に満たない。危機管理の観点から緊急連絡の周知等で、生徒により一層定着させる指導が必要である。</p> <p><b>【保護者との連携】</b>                      保護者向け「保護者懇談や学校行事に積極的に参加している」の肯定的回答は昨年度より微増したが(42.5% 42.9%)、数値が半数に満たない。引き続き保護者への学校行事等の周知や情報提供、参加しやすい行事形態等の検討、PTA役員の皆様との連携の充実を図っていく。                      また、保護者向けの次の3項目は、肯定的回答率が昨年より若干減少している。                      「きめ細やかな進路指導がなされている」(76.8%、-2.4%)                      「担任は親身になって相談や悩みに応じている」(82.2%、-2.8%)                      「学校はいじめや差別に対して適切に指導している」(82.0%、-2.7%)                      いずれも肯定的回答率は75%を超えているが、本校教育の根幹に係る項目であることから、各項目についてよりきめ細やかな取組みを進める必要がある。</p>	<p>(第1回) 令和元年7月2日                      学力保障について                      ・新たなコース制の広報をしっかりと行うべき。                      ・基礎学力の定着について、高校で学び直しできるよう、継続して取組んでほしい。                      生活指導関係                      ・1、2年生が3年生より遅刻が多い。適切で粘り強い遅刻指導が必要。                      部活動の活性化                      ・中学生対象の体験入部会(部活動トライアル、9月14日(土)実施)は良い試み。                      ・本校に特徴的な部活動(里山ボランティア等)の広報を行う                      人権学習について                      ・スマホの使用方法に関する近隣小学校への出前授業の取組みは素晴らしい。                      広報活動                      ・中学校の進路指導担当教員の意見を聞き、学校運営に活かしてほしい。                      保護者との連携                      ・保護者の学校行事に対する関心は高いが、PTA社会見学などへの参加率が低いことが課題ではないか。                      ・学校のホームページの存在は知っているが、あまり読まれていない可能性があるので工夫が必要。あれば残念。                      ・地域連携行事(里山ボランティア部が関わるタケノコ掘り等)に保護者の参加を促してはどうか。</p> <p>(第2回) 令和元年11月28日                      広報活動                      ・11月に実施した学校説明会(チャレンジ野崎)への参加が少ない地域に絞った広報活動が、今後は有効ではないか。                      ・野崎は交通の便が悪い印象があるが、バスの便利さなどをもっとPRすれば良いと思う。「東大阪から意外と近い」というチラシはとても良い。                      ・今後実施する学校説明会(1・2月)の広報に関しては、案内の送付だけでなく、中学生に担任から声掛けしてもらえるように、中学校に念押し電話をするのがいいのではないか。                      ・生徒の顔がよく見えるいい高校だということをもっと中学生に伝えるべき。                      ・文化祭で中学生の保護者から「うちの子、不登校なんですけど」という質問があったが、野崎には明るい子が多いし、中学校では不登校だった生徒さんもどんどん入ってきてほしい。                      部活動の活性化                      ・野球部とサッカー部の活動が良くなった(服装等も含め)。ダンス部・軽音部を絡めて広報していくべきではないか。                      ・里山ボランティア部の「切った竹を使って竹細工等を作る活動」等、普段体験できない活動内容などを伝えていけば良いのではないか。                      人権学習について                      ・野崎高校は「社会に出てから、これはアカン、これは良い」という人権教育がしっかりとされている。野崎高校は「心が育つ人権教育」がきちんとしてられている学校であるということをもっと売りにしていけば良いのではないか。</p> <p>○生徒指導                      ・1年生は頑張っている生徒が多い。コミュニケーションに課題がある生徒もいるが、一般的に社会に出たらしっかりと生きていける力のある生徒もいる。</p> <p>(第3回) 令和2年2月19日                      志願者確保・入学者選抜関連                      ・最後までできる範囲の努力を続けてほしい。                      ・国や府の指示に沿ってコロナウイルス対策をしっかりとやってもらいたい。                      生徒指導関係                      ・以前の悪い評判(喫煙・単車など)も残っているが、今の野崎高校はどちらかというと好印象の生徒がほとんどではないか。アンケートの結果を見ると間違いなく教員の努力の成果が出ている。それだけに低評価な部分があることが残念。                      ・里山ボランティア部の生徒の質も向上している。                      ・生徒と先生の関係が良いのが資料からよくわかる。                      ・保護者として、遅刻してもいいから学校に行ってくれたらうれしいという思いがある。遅刻指導の大変さは理解するが、厳しい指導よりも教師の温かいアプローチで、生徒を学校に向かせてほしい。                      授業評価について                      ・生徒授業アンケートにおける授業の満足度と達成感が高いのは、とても大きく評価されるべきである。                      ・実際に目にする野崎生に、そのような授業で培われた良い態度(例えば野球部のユニフォームなどの着こなし)が表れているのではないか。                      次年度も地域連携行事(大東森づくりクラブと里山ボランティア部が協力するタケノコ掘りなど)に積極的な参加を促してほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり	<p>(1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する。 ア 教員の授業力を向上させる。 イ 本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」を行う。 ウ 図書室の整備・充実。 エ 新たなカリキュラム編成。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する。 ア 3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践。 イ 生徒の進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・本校教員による公開授業・研究協議の実施。 ・授業力向上に係る校内研修の実施。 ・校外での研修・研究授業等への参加。 イ・ICT機器の活用、授業形態や授業方法を工夫改善することで、本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」を行う。 ウ・本校生徒の様々な学習活動の場として、またメンタル面から支援する居場所カフェの場として、図書室の整備・充実を図る。 エ・新カリキュラム編成の組織を立ち上げる。 ・学校として「育てたい生徒像」を明確にする。 ・現行カリキュラムの総括を行う。</p> <p>(2) ア・生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成できる、3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。 イ・地元企業・各種企業団体と協働した職場見学・インターンシップの実施する。 ・大学・短大・専門・専修・各種学校等と協働した学校見学や体験入学の実施。 ・各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やす。 ・生徒が各種検定試験における資格取得をめざすことで進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・年間5回の公開授業・研究協議を実施。 (平成30年度は3回実施) ・年間2回の授業力向上に係る校内研修実施。 (平成30年度は読書勉強会として4回実施) ・年間5名の教員が校外での研修・研究授業等へ参加。 (平成30年度は5名が参加) イ・生徒授業アンケートで「興味関心」「知識技能」の肯定的回答率を前年度より3%向上させる。 (平成30年度は66.8%・67.5%) ・生徒向け学校教育自己診断の「授業は分かりやすい」「授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。 (平成30年度は58.0%・71.4%) ウ・図書室の設備と蔵書の整備充実。 エ・新カリキュラム等を検討する組織の立ち上げ。 ・学校として「育てたい生徒像」を明確にし、現行カリキュラムの総括を完了。</p> <p>(2) ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。 (平成30年度は生徒72%・保護者79.2%) ・学校斡旋による就職内定率100%、理由のない進路未決定者0名(平成30年度は内定率100%、未決定者0名) イ・各種進路行事(大阪産業大学見学会 進路フェア 職業体験セミナー)への参加生徒数を今年度より増やす。 (平成30年度は25名、30名、24名) ・各種検定試験(漢検 英検 ワールド検定 数検 時事検定 情報処理技能)の受験者と資格取得者を昨年度より増やす。(平成30年度の資格取得者/受験者は、34/143、20/58、58/95、8/10、4/11、6/6)</p>	<p>(1) ア・年間6回の公開授業・研究協議を実施( ) ・校内研修未実施( ) 公開授業実施を優先 ・年間5名の教員が校外での研修・研究授業等へ参加( ) イ・70.0%・70.7%で目標達成( ) ・62.2%・73.5%でほぼ目標達成( ) ウ・PTAの寄贈(10万円)で図書資料を整備。また居場所カフェは昨年より5回多い年間20回実施した。( ) エ・カリキュラム委員会を毎月開催し、次年度から先行してカリキュラムを一部変更した。( ) ・新カリキュラムの編成理念を決定済( )</p> <p>(2) ア・生徒73.3%・保護者76.8%で未達成( ) 特に保護者へのきめ細かい説明が必要。 ・学校斡旋就職内定率100%、理由なき進路未決定者0名。( ) イ・参加生徒数は15名、未実施、生徒がより参加しやすい形態等を検討する。( ) ・一次合格等も含む。 12/42、12/37、43/82、8/13、5/10、1/2 ( ) チャレンジする生徒数を増やす。</p>
2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり	<p>(1) 生徒の規範意識や自律心を育成する。 (2) 教育相談・支援教育の体制を構築する。 (3) 他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。 (4) 生徒の自尊感情や自立心を育成する。 (5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取り組みを進める。</p>	<p>(1) ア・学校近隣や校門前の自転車交通指導を重点的に行う。教員による校外巡回、交通安全指導、校門立番等を実施する。 イ・遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶運動を実施する。</p> <p>(2) ア・本校生徒の現状に合った教育相談・支援教育の体制を構築する。 イ・本校生徒の家庭環境、発達特性等の理解を深めるための教育相談研修を実施する。</p> <p>(3) ア・人権にかかわる生徒の問題発言やSNSにおける行動に対する指導を充実させる。 イ・新たな人権課題に対応する教職員研修を実施する。</p> <p>(4) ア・HR活動、生徒会活動、部活動、学校行事等で、生徒が主体的に参加・行動する取り組みを進める。 イ・活用方法に関する職員研修を実施し、各種学校行事において生徒が利用できるようにする。 ・他校での取り組みや活用例を研究する。</p> <p>(5) ア・教職員実働防災訓練を企画、実施する。 ・生徒避難訓練の内容を見直して実施する。 イ・地域の保健所と連携したヘルスアッププロジェクトを実施する。</p>	<p>(1) ア・生徒指導部中心に定期的な校外巡回、交通安全指導を実施。 イ・年間の遅刻延べ回数を8000回未満にする (平成30年度は8623回) ・生徒向け学校教育自己診断の「マナー・校訓遵守」「頭髪・服装指導は適切」「遅刻指導・授業遅刻は適切」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。 (平成30年度は84.0%・66.4%・72.1%)</p> <p>(2) ア・教育相談委員会、就学対策委員会の運営をより充実させる。 ・生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を前年度より3%向上させる。 (平成30年度は70.4%) イ・年間2回の教員研修を実施。</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断の「いじめ・差別に対して適切に指導」「人権や命の大切の教育を実施」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。 (平成30年度は76.4%・83.6%) イ・年間2回の研修を実施。</p> <p>(4) ア・生徒の部活動の加入率を前年度より3%向上させる。 (平成30年度は32%) ・総合的な探究(学習)の時間で、コミュニケーションワークを年間3回実施する。 イ・年間2回の研修や視察を実施。</p> <p>(5) ア・地域と連携した実働防災訓練を実施。 ・実働防災訓練の成果を活かした生徒避難訓練を年間2回実施。 イ・保健所と連携した年間1回のプロジェクトの実施。</p>	<p>ア・各学期に1回以上強化期間を設けて実施( ) イ・10249回で昨年より1626回増( ) ・85.9%・64.5%・73.7%で未達成( ) ・今年度入学生徒は定員割れの影響で生徒指導上の課題を抱えた生徒が例年より多くなった。次年度はより生徒に寄り添った指導を行う。</p> <p>(2) ア・両委員会とも定例および必要に応じて開催した。次年度に向けてより効率的体制を検討中。( ) ・結果は74.8%で達成( ) ・支援教育推進フォーラムで本校の取り組みを発表。 イ・年間2回の研修実施( )</p> <p>(3) ア・結果は78.2%・88.1%、特に大きく上昇しており、おおむね達成( ) イ・年間2回の研修実施( ) ・渡日生日本語支援に関する本校の取り組みを発表。 ・人権教育推進事業(文科省指定)に取り組んだ。</p> <p>(4) ア・加入率32%( )。今後も活性化に向けて取り組む。 ・年間3回実施( ) イ・予定通り実施( )</p> <p>(5) ア・8月に実施( ) ・年2回実施。生徒の避難完了時間が減少( ) イ・1回実施( )</p>

府立野崎高等学校

<p>3 地域として 学校づくり 学校づくり</p>	<p>(1) 各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加する。 (2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施。 ア 部活動の交流。 イ 地元保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員の合同研修実施。 (3) 広報体制を確立する。 ア 本校ウェブページの充実。 イ 中学校への広報活動の充実。</p>	<p>(1) ア・だいたう森づくりクラブ(里山ボランティア) 地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会等の地域団体との交流・協力関係を今後も維持する。 イ・本校生徒・教職員による地域清掃活動を継続して実施する(野崎レポリューション)。 (2) ア・近隣小学校、中学校、高等学校の生徒と本校生徒が交流する機会を設定する。 イ・地元保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員が、共通する課題に関する合同研修や研究授業等を実施。 (3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。 ア・本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を生徒、保護者や地域住民に伝える。 イ・中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。</p>	<p>(1) ア・昨年度参加した地域連携行事には、今年度も生徒・教職員が参加する。 イ・年間5回実施(平成30年度は4回)。 (2) ア・行事、部活動、授業等で交流する機会を設ける。(平成30年度は5つの部活動で合同練習・交流試合等を年間1回以上実施)。 イ・年間2回の研修等を実施。 (3) ア・ブログの更新を週1回以上行う。 ・ウェブページにおいて未更新の古い情報をなくす。 イ・本校教員による中学校訪問の回数と校数を増やす。(平成30年度は25回・25校) ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。(平成30年度は中学校89校を訪問)</p>	<p>(1) ア・今年度も参加(○) イ・年間4回実施。5回目は新型コロナウイルス対応により中止。( ) (2) ア・9月に中学生向き部活動体験入部会(参加40名)を初めて実施。 また生徒会役員生徒等による、スマホの正しい利用方法に関する出前授業を、近隣小学校3校で実施。この取組みは大阪府で最優秀賞、及び「こころの再生」府民運動の表彰を受ける。(○) イ・緑風冠高校と合同職員研修を2回実施(○) (3) ア・ブログ更新は3/17までで278回、週1回のペースを大きく超えている。( ) ・ウェブページを整理(○) イ・教員の中学校訪問は10校、生徒による出身中学校訪問は48校。 ・1月と2月に実施した学校説明会参加者数は共に100名を超え成果があったが、最終的に志願者数の定員割れを防ぐことはできなかった。( )</p>
<p>4 方改革推進 教職員の働き</p>	<p>(1) 業務の効率化を推進する校内体制の構築を検討する。</p>	<p>(1) ・首席、分掌、各種委員会等の業務の見直しを行い、業務の効率化を推進する校内体制の構築を検討する。</p>	<p>(1) ・首席業務の見直しと、分掌の再編を進める。 ・教員の時間外勤務時間を、前年度より10%減らす。(H30年度は2月末までで教員一人平均の時間外勤務は約30時間)</p>	<p>(1) ・首席業務の見直しと分掌再編(広報担当分掌を新設)を実施(○) ・教員一人平均の1か月あたり時間外勤務時間は約27時間。(○)</p>